

第3章

糸満市における 読書・読み聞かせの 現状と課題

1. 糸満市の子どもたちの現状と課題

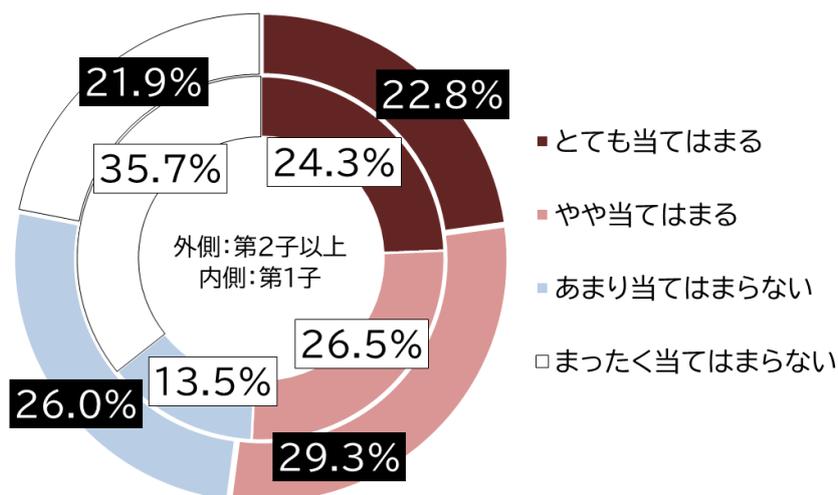
(1) 保護者から子どもへの読み聞かせの頻度から見える現状と課題

以下は、令和元年度にブックスタート¹に参加した保護者のうち、アンケートに協力した523人が回答したものです。アンケートでは「毎日」「週2～3回」「週1回」「月数回」「読んでいない」の5項目で聞いていますが、これを「とても当てはまる」「やや当てはまる」「あまり当てはまらない」「まったく当てはまらない」の4項目に当てはめると、以下ようになります。

第1子を持つ保護者の読み聞かせの頻度と、第2子以上を持つ保護者の読み聞かせの頻度を比較すると、「まったく当てはまらない（読んでいない）」の値が35.7%から21.9%と13.8ポイント低くなっていることから、ブックスタートに参加することにより、読み聞かせを始める保護者が多い可能性があります。

●子どもへの読み聞かせの頻度(令和元年度糸満市ブックスタートアンケートより)

(n=523)



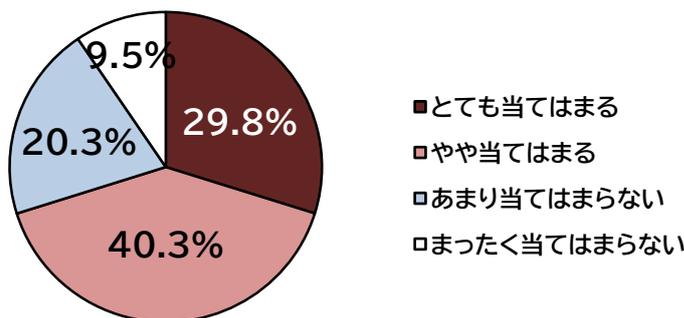
	毎日	週2～3回	週1回	月数回	読んでいない	人数合計
第2子以降	77人	99人	88人		74人	338人
第1子	45人	49人	25人		66人	185人
	とても当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない		まったく当てはまらない	

¹ ブックスタートとは、赤ちゃんに絵本を通して楽しさと喜びを分かち合うための活動で、糸満市では平成23年度から実施しています。健康推進課が行う乳児健診（前期：3～5か月）と同時開催しているため、乳児健診を受診する保護者全員を対象としています。ブックスタート推進員が絵本を通して子どもとの触れ合い方や読み聞かせの仕方を保護者に伝え、5冊ある絵本のうちから1冊をプレゼントしています。

そして以下が、平成30年度に文部科学省が行った調査「子供の読書活動の推進等に関する調査研究報告書」²より、小学生の子どもがいる保護者に聞いたもので、未就学児の頃に読み聞かせをしていた家庭の割合です。

「とても当てはまる」と答えた保護者が29.8% (3,726人)、「やや当てはまる」が40.3% (5,035人)、「あまり当てはまらない」が20.3% (2,541人)、「まったく当てはまらない」が9.5% (1,187人)となっています。

●未就学児の頃に読み聞かせをしていた家庭の割合(平成30年度文部科学省調査より)
(n=12,489)



とても当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない
3,726人	5,035人	2,541人	1,187人

【課題】

ブックスタートは現在未就学児を持つ保護者を対象としたアンケートに対し、文部科学省のものは現在就学児を持つ全国の保護者を対象としたアンケートのため、単純に比較はできませんが、「読み聞かせをしています(していました)か?」の問いに対して、「とても当てはまる」「やや当てはまる」を合わせた割合は、全国が70.1%に対して、系満市は52.1%(第2子以上)と、18ポイントの差があります。

ブックスタートを実施することにより「まったく当てはまらない」と答える保護者の割合は改善していますが、「とても当てはまる」「やや当てはまる」と答える保護者の割合に大きな改善は見られず、全国平均の割合と大きく離れた状態が続く可能性があります。「読み聞かせは読書への入り口」であることから、何らかの対策を講じることで、全国平均の値に近づける必要があります。

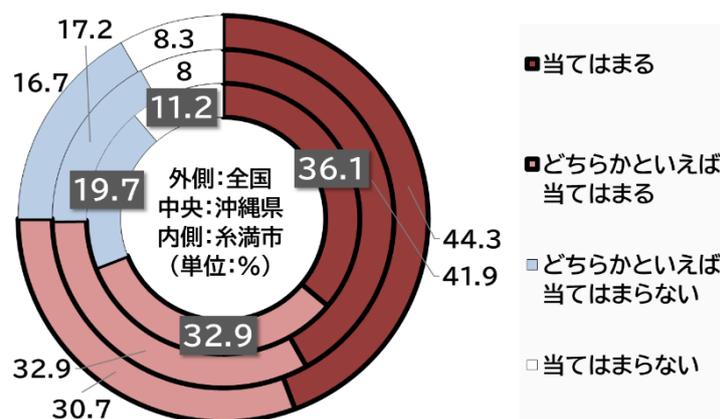
² 図表の詳細は p21 をご覧ください。

(2)小中学生における読書の現状と課題

小中学生における調査は、「平成31年度全国学力・学習状況調査³」を参考として、読書の現状と課題を見ていきたいと思ひます。

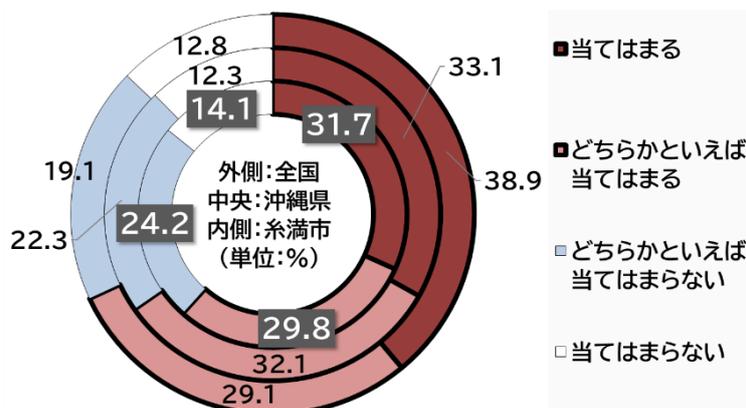
①読書は好きですか

《小学生》



小学生に関して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合は、全国平均は75%、沖縄県平均は74.8%なのに対し、糸満市は69%となっていて、全国平均と比較すると6ポイント、沖縄県平均と比較すると5.8ポイント低い状況となっています。

《中学生》



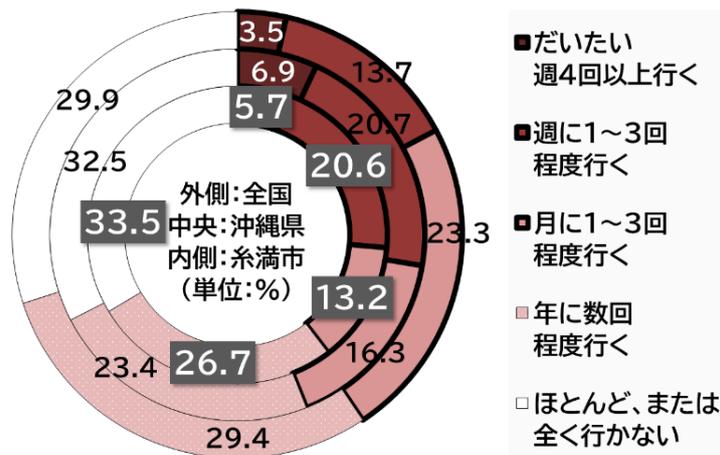
中学生に関して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合は、全国平均は68.1%、沖縄県平均は65.2%なのに対し、糸満市は61.5%となっていて、全国平均と比較すると6.6ポイント、沖縄県平均と比較すると3.7ポイント低い状況となっています。

³ 詳細は以下の URL からご覧ください。

(https://www.nier.go.jp/19chousakekkahoukoku/factsheet/19prefecture-City/47_okinawa/index.html)

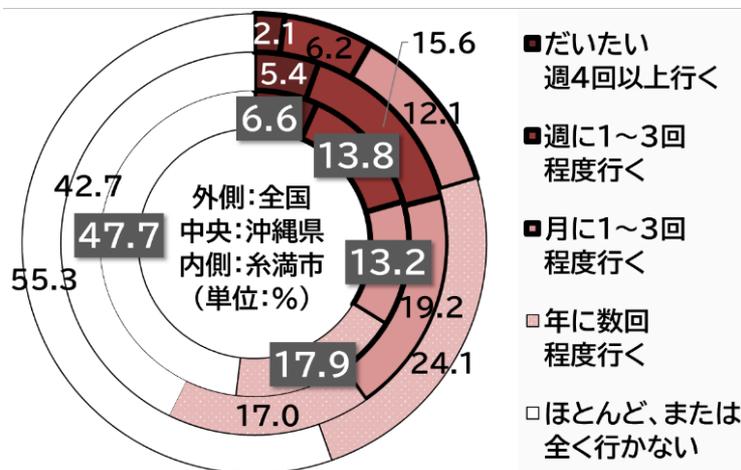
②昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館にどれくらい行きますか

《小学生》



小学生に関して、「月1回以上行く⁴（「だいたい週4回以上行く」「週に1~3回程度行く」「週に1~3回程度行く」の合計）」と答えた割合は、全国平均は40.5%、沖縄県平均は43.9%、糸満市は39.5%となっていて、全国平均より1ポイント、沖縄県平均より4.4ポイント低い状況となっています。

《中学生》

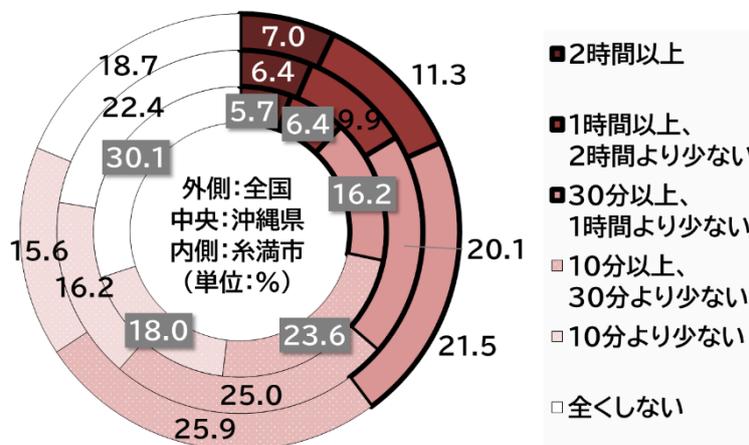


中学生に関して、「月1回以上行く（同上）」と答えた割合は、全国平均は20.4%、沖縄県平均が40.2%なのに対し、糸満市は33.6%となっていて、全国平均より12.9ポイント高い、沖縄県平均より6.6ポイント低い状況となっています。

⁴ 「月1回以上行く」で分析をしているのは、p14の「平成31年度全国学力・学習状況調査」より、「月1回以上学校図書館や地域の図書館を利用している児童の方が教科の平均正答率が高い傾向」とされているためです。

③学校の学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか

《小学生》

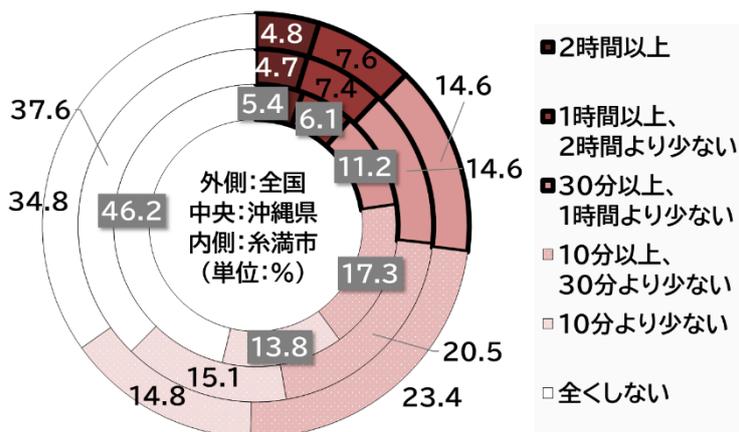


小学生に関して、「30分以上⁵（「2時間以上」「1時間以上、2時間より少ない」「30分以上、1時間より少ない」の合計）」と答えた割合は、全国平均は39.8%、沖縄県平均は36.4%なのに対し、糸満市は28.3%となっていて、全国平均より11.5ポイント、沖縄県平均より8.1ポイント低い状況となっています。

また、「全くしない」と答えた割合は、全国平均は18.7%、沖縄県平均は22.4%なのに対し、糸満市は30.1%となっていて、全国平均より11.4ポイント、沖縄県平均より7.7ポイント低い状況となっています。

⁵ 「30分以上」で分析をしているのは、p15の「平成31年度全国学力・学習状況調査」より、「30分以上読書をしている児童の方が教科の平均正答率が高い傾向」とされているためです。また、p17の「子供の読書活動の推進等に関する調査研究（平成29年7月5日）」より、「平日の読書時間と意識・行動等に関連性あり」とされていて、図表の区分も「30分以上」「30分未満」「まったくしない」に分けられていたためです。

《中学生》



中学生に関して、「30分以上（同上）」と答えた割合は、全国平均は27%、沖縄県平均は26.7%なのに対し、糸満市は22.7%となっていて、全国平均より4.3ポイント、沖縄県平均より4ポイント低い状況となっています。

また、「全くしない」と答えた割合は、全国平均は34.8%、沖縄県平均は37.6%なのに対し、糸満市は46.2%となっていて、全国平均より11.4ポイント、沖縄県平均より8.6ポイント低い状況となっています。

【課題】

- ①「読書が好き」と答える児童生徒の割合が全国平均、そして沖縄県平均よりも低いことから、糸満市の児童生徒に読書を好きになってもらう取組が必要です。
- ②学校図書館や地域の図書館を訪れる割合は、小学生に関しては全国平均とほぼ変わらない、中学生に関しては大幅に高いのにも関わらず、平日の読書時間は糸満市の方が低い、また、平日に全く本を読まない割合は糸満市の方が高いことから、読書習慣を定着させるための取組が必要です。

2. 子どもたちの読書や読み聞かせを支える環境の現状と課題

(1)教育・保育施設

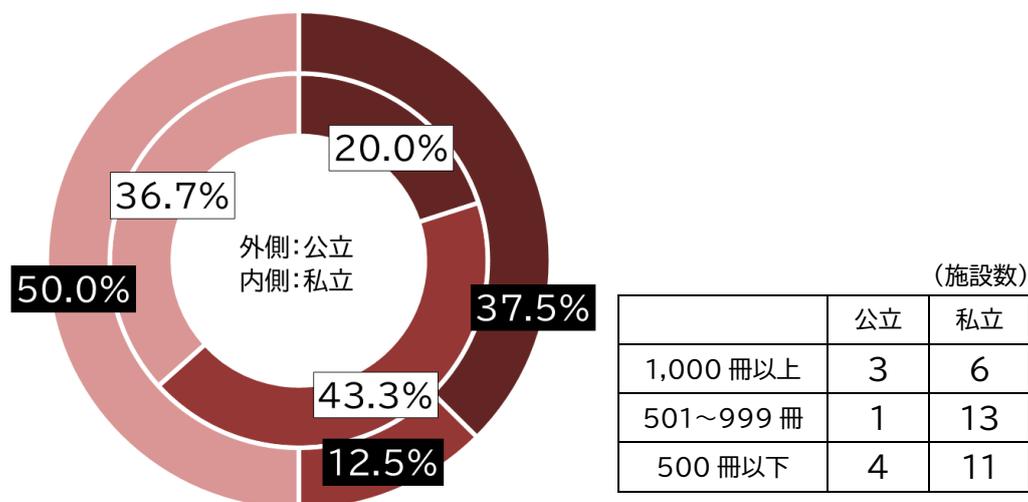
教育・保育施設については、令和2年10月に糸満市教育委員会で行った「保育園・こども園等における子どもへの読み聞かせの現状調査⁶」を参考として、読書の現状と課題を見ていきたいと思います。

《回答率》

(施設数)

種別	公立 ⁷		私立				全体	
	認定こども園	子育て支援施設	認可保育所	認定こども園	小規模保育事業所	幼稚園		認可外保育施設
全体数	5	3	14	12	14	1	4	53
回答数	5	3	10	11	6	1	2	38
回答率	100%	100%	71.4%	91.7%	42.9%	100%	50%	71.7%

①絵本の蔵書状況について教えてください。



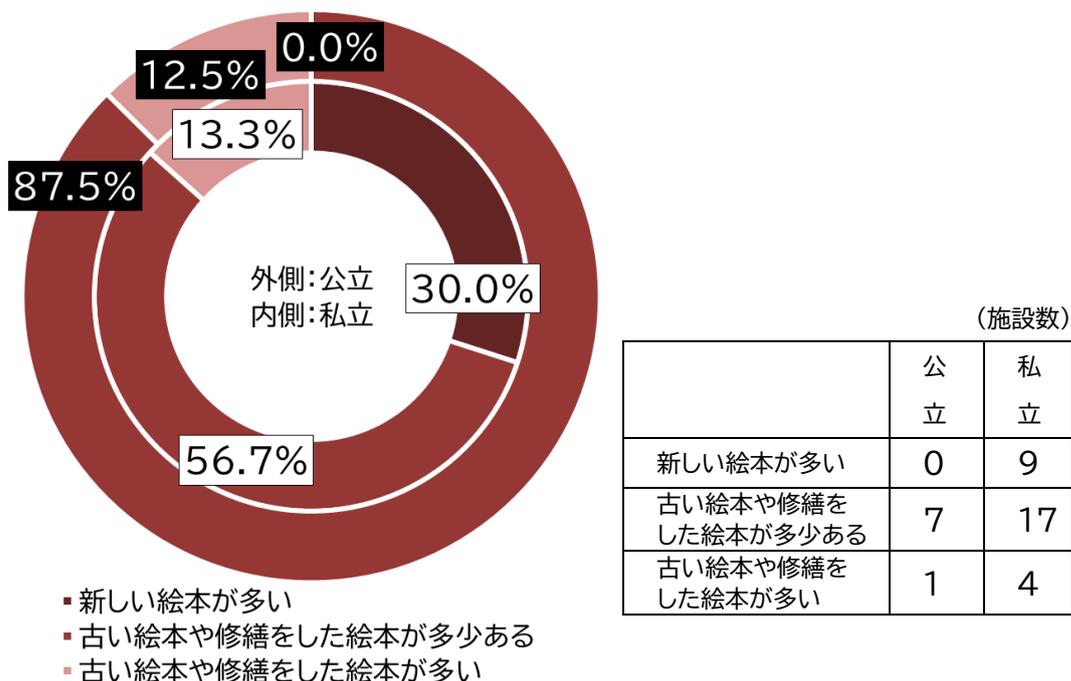
■ 1000冊以上 ■ 501冊～999冊 ■ 500冊以下

絵本の蔵書状況について、公立の施設は1,000冊以上が3施設で37.5%、501～999冊が1施設で12.5%、500冊以下が4施設で50%となりました。一方で私立の施設は、1,000冊以上が6施設で20%、501～999冊が13施設で43.3%、500冊以下が11施設で36.7%となりました。

⁶ 対象年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して、令和2年度ではなく、平成31年度としています。

⁷ 公立の施設について、認定こども園は真壁、喜屋武、兼城、糸満南、西崎の5園としています。子育て支援施設はめぐぬく、ぼかぼか、まかべの3施設としています。

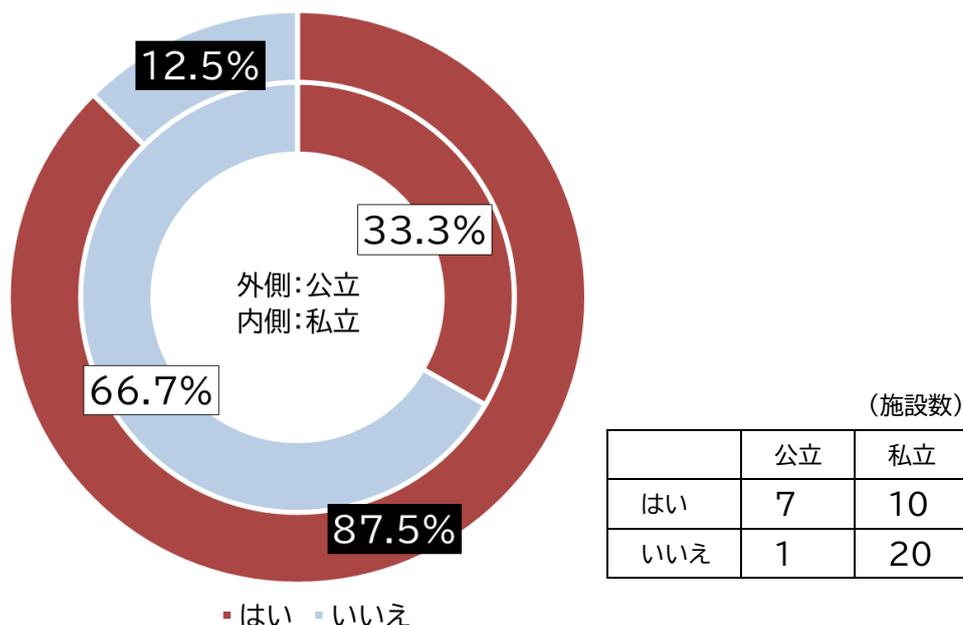
②絵本の状態について教えてください。



絵本の状態について、公立の施設は、「新しい絵本が多い」と答えたのが0施設で0%、「古い絵本や修繕をした絵本が多少ある」と答えたのが7施設で87.5%、「古い絵本や修繕をした絵本が多い」と答えたのが1施設で12.5%となりました。

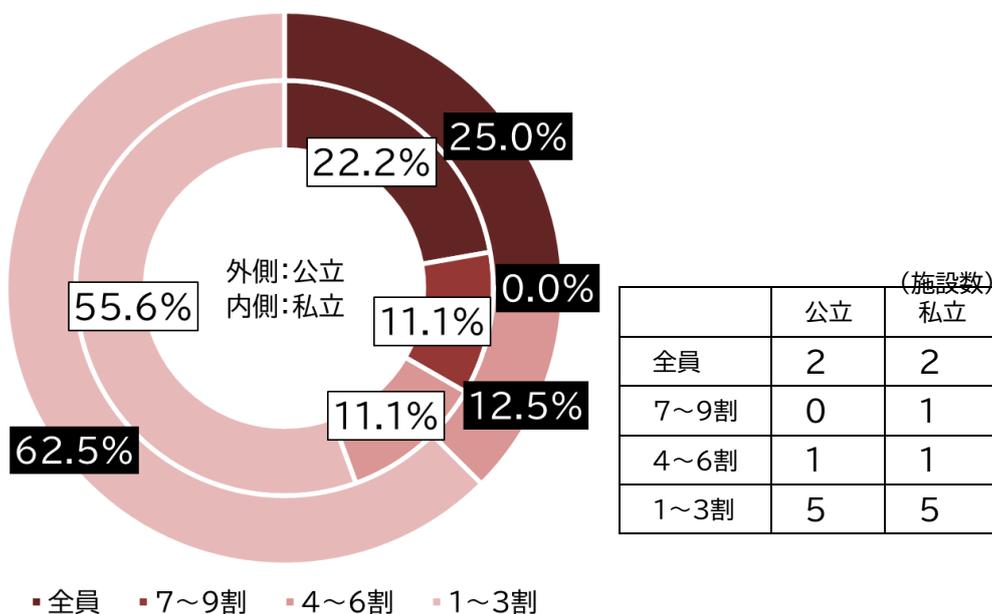
一方で私立の施設は、「新しい絵本が多い」と答えたのが9施設で30%、「古い絵本や修繕をした絵本が多少ある」と答えたのが17施設で56.7%、「古い絵本や修繕をした絵本が多い」と答えたのが4施設で13.3%となりました。

③保護者へ絵本の貸出を行っていましたか？



保護者へ絵本の貸出を行っていたかについて、公立の施設は7施設で87.5%が貸出を行っていたのに対し、私立の施設は10施設で33.3%の施設が貸出を行っていました。

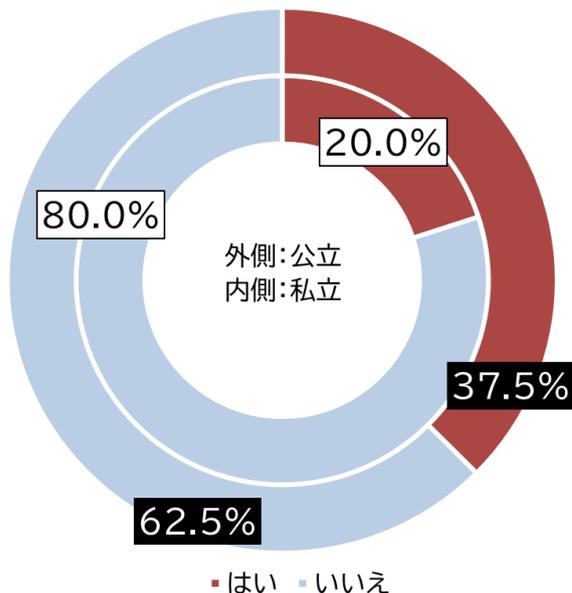
③-2 どれくらいの割合の保護者が借りていましたか？



③で「はい」と答えた施設に対して、どれくらいの割合の保護者が絵本を借りていたか尋ねたところ、公立・私立の施設ともに多かった答えが「1~3割」で、それぞれ5施設で62.5%、55.6%でした。

④誰が読み聞かせをしていましたか？(複数回答可)

《ボランティア》



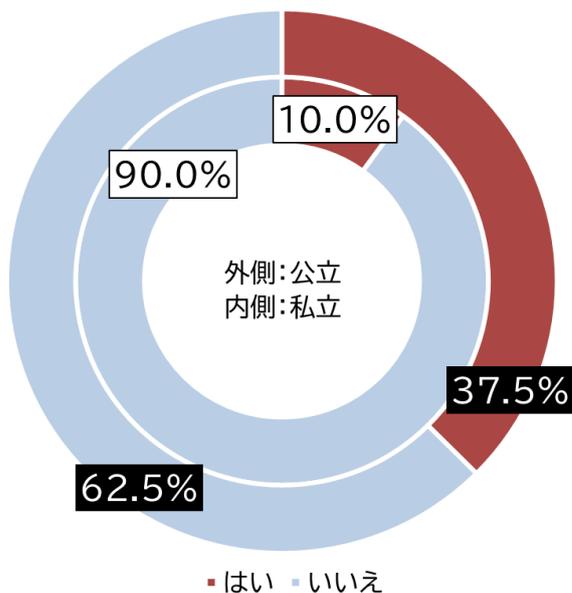
[公立]
地域の退職教員/読み聞かせボランティアサークル/地域の方

[私立]
読み聞かせボランティアサークル(2)/職場経験者/太陽児童センターのキャラバン隊/がじゅまる児童センターの子どもたち/光洋小学校ボランティアクラブ(6年生)

(施設数)

	公立	私立
はい	3	6
いいえ	5	24

《その他》



[公立]
保護者(3)

[私立]
実習生/事務局職員/保護者

(施設数)

	公立	私立
はい	3	3
いいえ	5	27

「誰が子どもたちに読み聞かせをしていましたか？」の問いに対して、すべての施設で職員による読み聞かせが行われていました(図表は省略)。また、「ボランティア」が読み聞かせをしていた施設は、公立が3施設で37.5%なのに対し、私立は6施設で20%でした。そして、「その他」の方々が読み聞かせをしていた施設は、公立が3施設で37.5%なのに対し、私立は3施設で10%でした。

⑤職員による読み聞かせのバリエーションを教えてください。(複数回答可)

《公立(8施設)》

読み聞かせ	8
紙芝居	7
エプロンシアター	7
その他	4

[その他バリエーション]

パネルシアター (4) /ハンカチおはなし

《私立(30施設)》

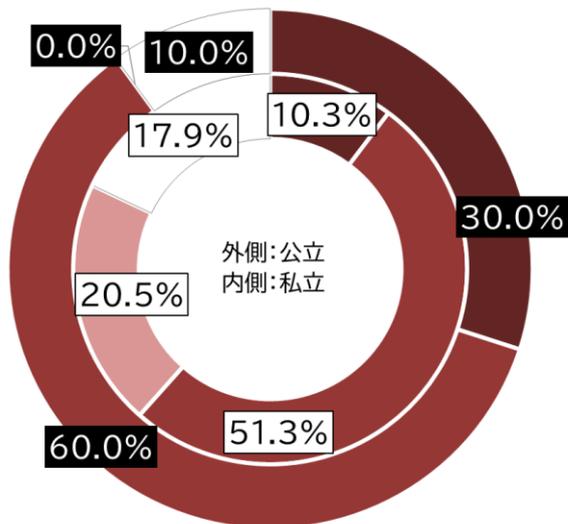
読み聞かせ	30
紙芝居	27
エプロンシアター	27
その他	14

[その他バリエーション]

パネルシアター (8) /ペープサート (8) /大型絵本 (5)
/手袋人形 (2) /素話/指人形/人形劇/寸劇/スケッチブックシアター

職員による読み聞かせのバリエーションを尋ねたところ、「読み聞かせ」「紙芝居」「エプロンシアター」に関しては、公立、私立の施設どちらも、ほとんどの施設で行われていることがわかりました。また、その他のバリエーションとして、パネルシアター、ペープサート、大型絵本などを行っていることもわかりました。様々な工夫を凝らして、子どもたちに絵本の世界の楽しさを伝えていることが実によくわかります。

⑥保護者に対して、以下の取組を行っていましたか？(複数回答可)



- 読み聞かせに関する研修会等の実施
- 園だより等に絵本の紹介や読み聞かせの大切さ等を盛り込む
- その他取組
- 特段行っていない

《その他取組》

[公立]なし

[私立]

個人面談時に必要に応じて絵本の紹介や大切さなどを話している

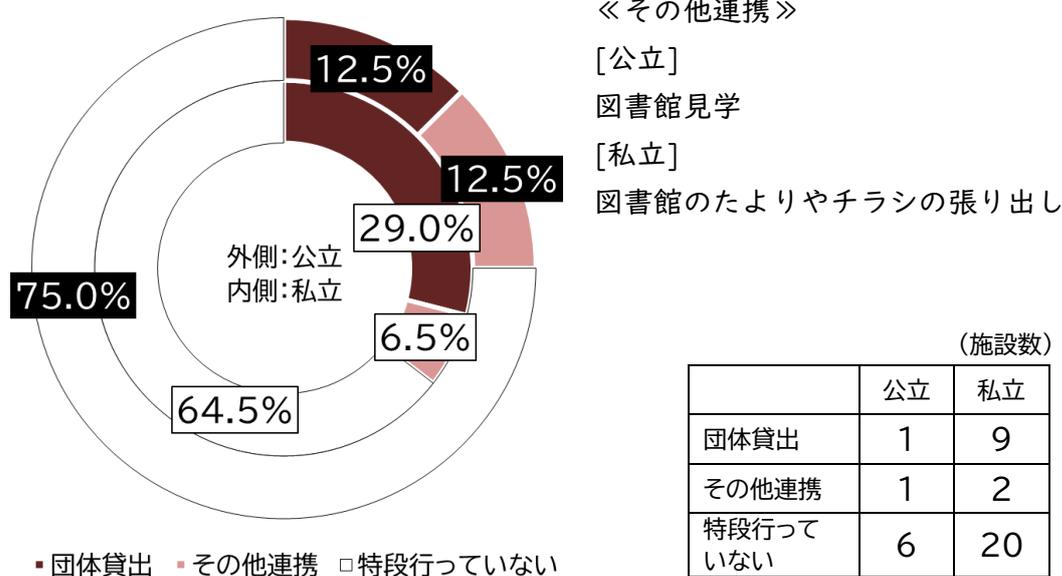
(2) /入園式に絵本の大切さを講話/図書委員が毎月「今月のおすすめ絵本」を展示して紹介しています/玄関で絵本の紹介をしています/毎月の絵本を掲示して手に取れるようにしている/クリスマスプレゼントで絵本をあげている。その際に、家にある絵本や、絵本の選び方など話しながら決めている

(施設数)

	公立	私立	全体
読み聞かせに関する研修会等の実施	3	4	7
園だより等に絵本の紹介や読み聞かせの大切さ等を盛り込む	6	20	26
その他取組	0	8	8
特段行っていない	1	7	8

読み聞かせに関する保護者に対しての取組について尋ねたところ、何らかの取組を行っているのが、公立の施設で90%だったのに対し、私立の施設は82.1%と、7.9ポイントの差があることがわかりました。

⑦中央図書館と以下の連携を行っていましたか？(複数回答可)



中央図書館との連携状況について尋ねたところ、何らかの連携を行っていたのが、公立の施設で25%、私立の施設で35%と、10ポイントの差があることがわかりました。

一方で、中央図書館との連携を特段行っていないのは、公立の施設で75%、私立の施設で65%にもものぼりました。

⑧(公立の施設対象)利用園児への読み聞かせの環境がさらに良くなるために、糸満市に要望することはありますか？(複数回答可) (施設数)

絵本の購入予算を増額してほしい	4
子どもへの読み聞かせがいかに良いかを保護者に伝える取組を行ってほしい	5
その他要望	1

《要望詳細》

- 絵本の購入予算は園児より年間で絵本購入費、保護者会費より一部で補っているが足りていない。絵本の劣化が激しいので苦慮している。もっと絵本の環境を充実させたい。
- テレビやYouTubeに負けないくらい、絵本の読み聞かせや演劇を通して絵本を紹介してほしい。どんどん見慣れて読みたくなるように。
 - 例)・イベント会場に読み聞かせ時間を設ける。
 - ・誰もが読み手になれる機会を取り入れる。
 - ・絵本の世界を劇にして見せ、後で絵本に親しむ。
 - ・糸満の民話をたくさん聞かせてほしい。

⑧(私立の施設対象)利用園児への読み聞かせの環境がさらに良くなるために、糸満市に要望することがありましたら教えてください。

ボランティアについて(7件)

- ・絵本の読み聞かせをしてくれる人の派遣。
- ・園に読み聞かせに来てほしいです。
- ・各保育施設への読み聞かせ隊の派遣
- ・コロナ禍がおちついたら、ボランティアの方による読み聞かせ(毎週火曜日)再開してほしい。
- ・中央図書館で毎月読み聞かせを企画してもらいたい(以前はキャラバン隊が来ていました)。
- ・小学生が小さい子に読み聞かせをする取組を行ってほしい。
- ・当園の様に3歳未満児が利用対象の保育園(小規模保育事業所)の場合、子どもたちがお気に入りの絵本はどうしても痛むのが早く、保育士がその修繕にかかる時間をつくるのも難しい現状です。例えばですが、市が絵本の修繕をしてくれるボランティア活動の団体をつくりバックアップするなどしてくれるとありがたいです(保育園に出向いて修繕する、修繕必要な絵本を受け付け修繕し保育園に返す等)。

講演会等の開催(7件)

- ・子どもへの読み聞かせがいかに良いかを保護者に伝える取組を行ってほしい。例えば、専門講師をお招きして、保護者、乳幼児を対象とした「読み聞かせイベント」を行う等。
- ・子どもへの読み聞かせがいかに良いかを保護者に伝える取組を行ってほしい。(2)
- ・保育士対象の読み聞かせの大切さの講習(演)会や、保護者向けの講演会の開催をしてほしい。
- ・保護者向け講演会等あったらよい。
- ・保護者向けの参加しやすい講演会(webなど)
- ・親子で参加できる絵本を使ったワークショップなど。

ブックスタート関係(5件)

- ・乳児健診でのブックスタートはとても良いと思います。誕生日のプレゼントで絵本のプレゼントがあると、子どもと保護者も興味を持ってくれるかなと思います。
- ・ブックスタートの継続。2・3回配布があると意識が高まるかも。
- ・小学校入学、中学校入学、又は毎年1冊家庭へ絵本のプレゼント
- ・1歳半、3歳健診時に絵本か、絵本クーポンなどをプレゼントしてあげてほしい。
- ・赤ちゃんへの「ブックスタート」があるように、1年生になる前の5歳児親子への「〇〇スタート」のような取組があるといいなと思います。幼児期の親子絵本タイムの、あたたかく、楽しく、色々なところへ連れていってくれそうな愉快的な心持ちがそのまま、1年生の親子教科書タイムにも繋がるかもしれません。

くろしお号について(5件)

- ・中央図書館から出前貸出をしてもらいたい(保育士不足&子どもが増えているので、団体貸出を利用しに中央図書館へ行く余裕がない)
- ・月に1、2回程度、絵本バスを保育園に巡回してほしい。夕方のお迎え時間だと、保護者も一緒に利用できるのでは効果が高い。
- ・車移動で絵本貸し出しを行ってほしい(保護者と一緒に貸出)。そこで、絵本の読み聞かせや、それについての講演会(保護者に向けた)を行うなどイベント化する。
- ・移動図書館の巡回(個人へ貸出は難しいので、園で代表として5冊程。貸出でなくても、見学でも、夢がふくらむかも?)
- ・50~100冊程、一週間借りることが可能で、なおかつ本の貸出・回収へ園に来てくれるとありがたいです(事前に借りる本をリストでチェック)

情報提供について(4件)

- ・絵本選びに悩んでいる保護者がいると思うので、年齢にあった絵本を紹介してほしい。
- ・新しい絵本やおすすめ、季節の絵本などの情報がわかれば、園から保護者に情報提供できると思う。
- ・年齢別の絵本の紹介（選び方）
- ・保護者のギモンに答えられるものの提供（絵本の選び方(何を買っていいかわからない)、0歳児でも絵本を読んで意味わかるの？、絵本を読もうとしても子どもがめくってしまい読めないけど、それでいいの？、読んでも興味を示さない、絵本を噛んでしまう）

中央図書館について(4件)

- ・保護者がもっと気軽に中央図書館へ興味が持てるような絵本の紹介等のパンフレットなどを配布してほしい。
- ・中央図書館のイベント告知や、図書館の利用できる施設内容の紹介等を行うことで、利用者も増え、絵本を読む機会が増えると思う。イベント事や、施設利用内容など実際に図書館まで足を運ばない限り、知ることができない人も少なからずいる。もっと大々的に宣伝すると、本にふれる機会も増えてくると思う。
- ・中央図書館の玄関および室内をリフォームして幼児が入りやすい環境にしてもらいたい（現状は暗いため）
- ・中央図書館の場所は林の中にあり、高台で沖縄一の施設です。企画運用を期待いたします。

補助金について(3件)

- ・絵本を購入する補助金を各園にお願いしたい。
- ・保護者の方が身近に絵本を貸出できる環境を整える（園で絵本の貸出を行う。その為には絵本をある程度揃えないといけないので、購入の補助があると取り組むことが可能になると思います）。
- ・子どもたちに1冊本を持たせたいが、補助金はないので共有している。保護者にもどんな本を読み聞かせているのか、どんな様子でどんな反応があったのか知ってもらうため、口頭や連絡帳で伝えているが、家でも読み聞かせはぜひやってほしいので、みんなに1冊持たせることが出来たら良いのになと思っています。

その他(3件)

- ・系満市の伝統行事の絵本があるといい（ハーレー、綱引き、十五夜）。0～2歳児が見られる絵本（生写真、フォトブック等）

- ・糸満市に関するもの(糸満の花、情報など)。子どもが見られるよう小さいサイズで。
- ・健診の時に読み聞かせをすることで親子の愛着関係が築けることや、親子のふれあいの時間をつくれる大切な時間だということをアピールしてほしい。

【課題】

- ①公立の施設に関して、絵本の状態を改善するためにも、絵本の購入予算を増やす取組が必要です。
- ②私立の施設に関して、保護者への絵本の貸出を行う施設を増やすためにも、絵本の購入予算を補助する取組が必要です。
- ③保護者が絵本を借りる割合を増やすためにも、子どもへの読み聞かせがいかに良いかを伝える取組が必要です。
- ④読み聞かせボランティアについて、より多くの施設で実施できる仕組みづくりが必要です。
- ⑤中央図書館との連携強化が必要です。

(2)小中学校

小中学校については、令和2年10月に系満市教育委員会で行った「子どもの読書活動推進に関する調査⁸」を参考として、読書の現状と課題を見ていきたいと思ひます。

①読書指導の状況について教えてください。

ア 一斉読書の時間(読み聞かせを含む)の実施頻度を教えてください。

小学校(6年生)

頻度	校数	備考
毎日	1	5分。その他の時間もあり。
週2回	5	
週1回	4	

中学校(3年生)

頻度	校数	備考
毎日	1	
週4回	1	
週3回	1	
週2・3回	1	
週1回	1	1学期のみ
月1回	1	

●大度分校は毎日実施している。

イ 以下の目標を定めていましたか。

A 平日の読書時間

小学校(6年生)

	校数	備考
はい	2	20分/10分
いいえ	8	

中学校(3年生)

	校数	備考
はい	1	朝の会の前に15分
いいえ	5	

⁸ アンケート調査の対象年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して、令和2年度ではなく、平成31年度としています。また、対象の学年は、「全国学力・学習状況調査」と合わせて、小学6年生と中学3年生としています。

B 1か月の読書冊数**小学校(6年生)**

	校数	備考
はい	1	6～8冊
いいえ	9	

中学校(3年生)

	校数	備考
はい	0	
いいえ	6	

C 1年間の読書冊数**小学校(6年生)**

	校数	冊数	校数
はい	9	90冊	2
		80冊	3
		70冊	3
		学年指定図書 20冊	1
いいえ	1		

中学校(3年生)

	校数	冊数	校数
はい	6	45冊	1
		40冊	4
		15冊	1
いいえ	0		

読書指導の状況について、一斉読書の時間については、市内全校実施していることがわかりました。ただ、その頻度には差があることもわかりました。

また、読書に関する目標について、1年間の読書冊数についてはほとんどの学校で目標を定めていることがわかりました。一方で、平日の読書時間や1か月の読書冊数に関しては、特段定めていない学校が多数を占めていることがわかりました。

②学校図書館の整備状況について教えてください。

ア 学校図書館の蔵書数について教えてください(令和2年3月31日時点)。

小学校

学校名	蔵書数	図書館図書標準冊数 ⁹	達成率
A校	18,243	12,560	145.25%
B校	7,783	6,040	128.86%
C校	7,704	6,040	127.55%
D校	15,224	12,760	119.31%
E校	14,267	12,360	115.43%
F校	12,368	10,760	114.94%
G校	11,829	10,760	109.93%
H校	6,526	6,520	100.09%
I校	12,737	12,760	99.82%
J校	8,217	8,760	93.80%

中学校

校名	蔵書数	図書館図書標準冊数	達成率
A校	9,496	7,920	119.90%
B校	9,964	8,480	117.50%
C校	11,484	10,160	113.03%
D校	12,468	11,680	106.75%
E校	9,208	10,160	90.63%
F校	11,515	13,600	84.67%

●大度分校は蔵書数 216 冊。

⁹ 公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、平成5年3月に定められたものです。詳細は以下の URL からご確認ください。(https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/hourei/cont_001/016.htm)

イ 児童生徒が読書を楽しむのに十分な本はそろっていると思いますか？

小学校(大度分校含む)

	校数	そう思わない理由
とてもそう思う	1	
ややそう思う	4	
あまりそう思わない	5	本は多いが古いため(2)/本が古く少ないため/本は新しいが少ないため/コンクール用の複本が多すぎる/標準冊数により一人の子が手にする本の種類が少ない
全くそう思わない	1	本は多いが古いため

中学校(大度分校含む)

	校数	そう思わない理由
とてもそう思う	1	
ややそう思う	3	
あまりそう思わない	3	本は多いが古いため/本が古く少ないため/本は新しいが少ないため
全くそう思わない	0	

ウ 児童生徒が授業で活用できる本や資料等は十分にそろっていると思いますか？

小学校(大度分校含む)

	校数	そう思わない理由
とてもそう思う	0	
ややそう思う	4	
あまりそう思わない	6	本が古く少ないため(2)/本は新しいが少ないため(2)/蔵書数が少ない
全くそう思わない	1	本は多いが古いため

中学校(大度分校含む)

	校数	そう思わない理由
とてもそう思う	1	
ややそう思う	2	
あまりそう思わない	4	本が古く少ないため(2)、本は新しいが少ないため(2)
全くそう思わない	0	

工 教諭が学級運営等で活用できる本や資料等は十分にそろっていると思いますか？

小学校(大度分校含む)

	校数
とてもそう思う	0
ややそう思う	3
あまりそう思わない	6
全くそう思わない	2

中学校(大度分校含む)

	校数
とてもそう思う	1
ややそう思う	1
あまりそう思わない	5
全くそう思わない	0

オ 図書館の読書・学習スペースは、十分足りていると思いますか？

小学校

	校数
とてもそう思う	0
ややそう思う	5
あまりそう思わない	0
全くそう思わない	5

中学校

	校数
とてもそう思う	1
ややそう思う	4
あまりそう思わない	1
全くそう思わない	0

- 大度分校は児童生徒 30 名以内を想定した校舎のため、教室等も含めて多くの図書を保管する場所を確保することが難しい。図書コーナーも設置しているが、スペース的な制限があり、図書を増やしていくことに課題がある(代わりにくろしお号を活用している)。

学校図書館の整備状況について、学校図書館の蔵書数に関しては、学校図書館図書標準冊数を満たしている学校は小学校で8校、中学校で4校と多いことがわかりました。

しかし、本や資料の充実度を尋ねると、「児童生徒が読書を楽しむのに十分な本はそろっていない」と答えた学校が、小学校で6校、中学校で3校でした。「児童生徒が授業で活用できる本や資料等は十分にそろっていない」と答えた学校は、小学校で7校、中学校で4校でした。「教諭が学級運営等で活用できる本や資料等は十分にそろっていない」と答えた学校については、小学校で8校、中学校で5校でした。

また、図書館の読書・学習スペースについては、「足りていない」と答えた学校が小学校で5校、中学校で1校でした。

③読書推進に関する体制について教えてください。

ア 図書館利用計画等を実施するにあたり、どなたがリーダー的役割を担っていますか？(複数回答可)

小学校

	校数
管理職	1
図書館主任	7
司書教諭	2
学校司書	3
その他教職員	1
担っている人はいない	1

中学校

	校数
管理職	1
図書館主任	5
司書教諭	1
学校司書	5
その他教職員	0
担っている人はいない	0

イ 児童生徒への読書指導や、学校図書館の利活用等に関する教職員向けの研修を実施しましたか？

小学校

	校数
実施した	2
特段実施していない	8

中学校

	校数
実施した	3
特段実施していない	3

ウ 図書館主任の先生が、図書館主任として従事する時間はありましたか？

小学校

	校数
十分にある	0
ある程度はある	1
あまりない	4
全然ない	5

中学校

	校数
十分にある	0
ある程度はある	3
あまりない	3
全然ない	0

エ 司書教諭の先生が、司書教諭として従事する時間はありましたか？

小学校

	校数
十分にある	2
ある程度はある	2
あまりない	0
全然ない	5
司書教諭がいなかった	1

中学校

	校数
十分にある	1
ある程度はある	1
あまりない	3
全然ない	0
司書教諭がいなかった	1

オ 図書館主任もしくは司書教諭の先生は、図書館に関する研修に参加していましたか？

小学校

	校数
参加していた	8
参加できなかった	2

中学校

	校数
参加していた	4
参加できなかった	2

読書推進の体制については、リーダー的役割を担っているのは、小学校では主に図書館主任の先生、中学校では図書館主任の先生と学校司書の先生が担っていることがわかりました。しかし、図書館主任の先生に関して、「図書館主任として従事する時間はない」と答えた学校が、小学校で9校、中学校で3校あることがわかりました。

また、司書教諭の先生が、読書推進のリーダー的役割を担っていない学校が多いこともわかりました。

そして、読書指導や学校図書館の利活用等に関する教職員向けの研修を特段実施していない学校が、小学校で8校、中学校で3校あることがわかりました。

④貴校児童生徒の読書推進に関して、糸満市教育委員会に要望することはありますか？(複数回答可)

小学校(大度分校含む)

	校数
①学校図書館図書購入費の増額	7
②子どもの読書推進について保護者に理解促進を図る	2
③中央図書館との連携強化	6
④読書や読み聞かせ、学校図書館活用等に関する研修実施	3
⑤その他	1
⑥特になし	2

《要望詳細》

- ①令和元年度より予算減額1万。一人あたり 750 円前後の予算を頂いている計算です。以前から出ている話ですが、PTA 費(徴収費)で図書費として 1,000 円徴収されていたので、児童のリクエスト、教師のリクエスト、教科書に載って紹介されている本など購入する事が出来ていました。しかし PTA 費で図書が購入不可(徴収できない)になるとささやかれているので、予算額をこれ以上減らさないでほしいです。欲を言えば、児童一人千円の計算で各学校配分してほしいです。
- ③くろしお号の巡回をしてほしいです。同じ糸満市内で巡回がある学校とない学校があるのは不公平感がある。くろしお号が来てくれれば、児童はまた新たな気持ちで本を読むことができるうえ、読書推進につながると思います。
- ③移動図書館を利用したい。
- ③学校図書館と中央図書館の職員合同研修の実施。
- ⑤学校図書館間の相互貸借の実施。

中学校(大度分校含む)

	校数
①学校図書館図書購入費の増額	2
②子どもの読書推進について保護者に理解促進を図る	2
③中央図書館との連携強化	3
④読書や読み聞かせ、学校図書館活用等に関する研修実施	1
⑤その他	2
⑥特になし	1

《要望詳細》

- ⑤レファレンス（図書を探す力）を強化してほしいと思っているので、貸出用パソコンをノートパソコンにし、1台多く設置は可能かどうか。（ノートパソコンは蔵書点検にも活用しやすいという利点がある）
- ⑤ネット回線の安定（貸出が集中しやすい昼休みにネットが不安定になりやすく、貸出を待つ生徒が密集してしまう）。
- ⑤PC 機器の充実とインターネット環境の整備。
- ⑤正規職員の配置。

【課題】

- ①学校図書館図書の状態が良くないことから、図書購入費を増額する取組が必要です。
- ②中央図書館との連携強化が必要です。
- ③読書指導の状況について、「全国学力・学習状況調査」などの分析結果が必ずしも反映されていないことから、分析結果を反映した読書指導を行うことが必要です。
- ④読書推進を行う体制が新学習指導要領に記載されている状況には達していないことから、少しずつでもできることを考えていくことが必要です。

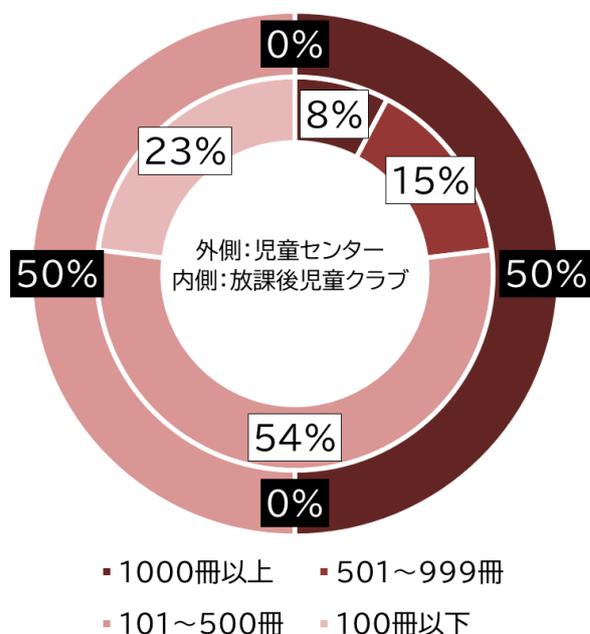
(3)児童センター・放課後児童クラブ

児童センターおよび放課後児童クラブについては、令和2年10月に糸満市教育委員会で行った「児童センター/放課後児童クラブにおける子どもの読書活動の現状調査¹⁰⁾」を参考として、読書の現状と課題を見ていきたいと思えます。

《回答率》

種別	児童センター	放課後児童クラブ	合計
全体数	2	18	20
回答数	2	13	15
回答率	100%	72.2%	75%

①本の整備状況について教えてください。



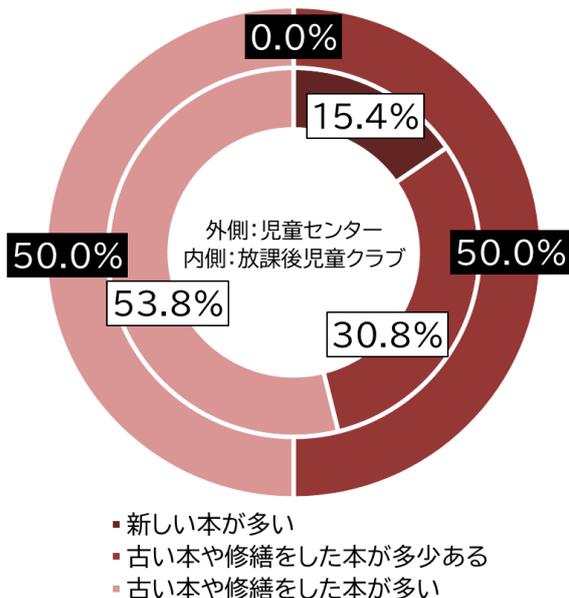
(施設数)

	児童センター	放課後児童クラブ
1,000冊以上	1	1
501～999冊	0	2
101～500冊	1	7
100冊以下	0	3

絵本の蔵書状況について、児童センターは1,000冊以上が1施設で50%、101～500冊が1施設で50%でした。放課後児童クラブに関しては、1,000冊以上が1施設で8%、501～999冊が2施設で15%、101～500冊が7施設で54%、そして100冊以下が3施設で36.7%でした。

¹⁰⁾ アンケート調査の対象年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して、令和2年度ではなく、平成31年度としています。

②絵本の状態について教えてください。

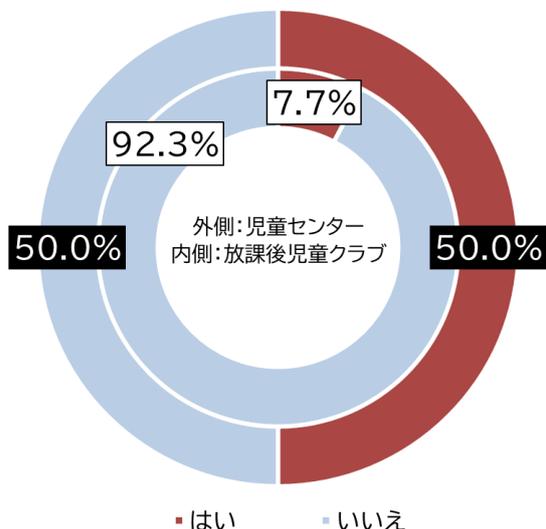


(施設数)

	児童センター	放課後児童クラブ
新しい本が多い	0	2
古い本や修繕をした本が多少ある	1	4
古い本や修繕をした本が多い	1	7

絵本の状態について、児童センターは、「古い本や修繕をした本が多少ある」と答えたのが1施設で50%、「古い本や修繕をした本が多い」と答えたのが1施設で50%でした。放課後児童クラブに関しては、「新しい本が多い」と答えたのが2施設で15.4%、「古い本や修繕をした本が多少ある」と答えたのが4施設で30.8%、「古い本や修繕をした本が多い」と答えたのが7施設で50%でした。

③児童へ本の貸出を行っていましたか？



(施設数)

	児童センター	放課後児童クラブ
はい	1	1
いいえ	1	12

児童へ本の貸出を行っていたかについて、児童センターは1施設で50%、放課後児童クラブも1施設で7.7%の施設が貸出を行っていました。どれくらいの割合の児童が借りていたかについては、上記2施設どちらも「1～3割」との答えでした。

④読み聞かせの状況について教えてください。

ア 読み聞かせをしていましたか？

	回答数	はい	割合
児童センター	2	2	100%
放課後児童クラブ	13	11	85%

イ どれくらいの頻度で行っていましたか？

《児童センター(2施設)》

	施設数
月数回	1
その他	2

[その他回答]

- ・「読み聞かせキャラバン隊」の活動（7月末から8月初旬）に向けて、集中的に読み聞かせを実施。
- ・年3回利用児童が保育園児に行く。

《放課後児童クラブ(11施設)》

	施設数
毎日	1
週に複数回	4
週に1回	2
月数回	4

ウ 誰が読み聞かせをしていましたか？(複数回答可)

《児童センター(2施設)》

	施設数
職員	1
ボランティア	0
その他	2

[その他回答]

- ・母親クラブを主にした地域の方々が「読み聞かせキャラバン隊」の児童向けに実施。
- ・利用児童。

《放課後児童クラブ(11施設)》

	施設数
職員	11
ボランティア	1
その他	4

[ボランティアの回答]・実習生。

[その他回答]

- ・職員の後に、高学年の児童が率先して低学年へ読み聞かせしている。
- ・高学年の児童 ・子供たち(2)

エ 職員による読み聞かせのバリエーションを教えてください。

《児童センター(1施設)》

	施設数
読み聞かせ	1
紙芝居	1
エプロンシアター	0
その他	0

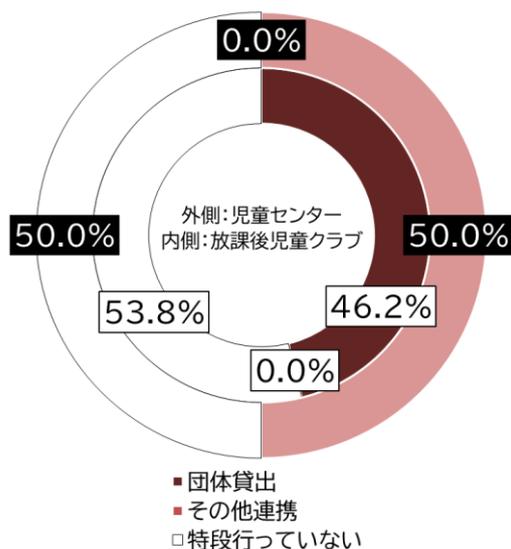
《放課後児童クラブ(11施設)》

	施設数
読み聞かせ	11
紙芝居	1
エプロンシアター	0
その他	0

読み聞かせの状況について、児童センター、放課後児童クラブのいずれも多くの施設で読み聞かせを定期的に行っていることがわかりました。

読み聞かせを行っているのは、施設職員の他、利用児童同士で行っていることもわかりました。

⑤中央図書館と以下の連携を行っていましたか？(複数回答可)



[その他連携]

・くろしお号が月2回来館する際に児童・職員・地域住民が利用。(児童センター)

(施設数)

	児童センター	放課後児童クラブ
団体貸出	0	6
その他連携	1	0
特段行っていない	1	7

中央図書館との連携状況について尋ねたところ、何らかの連携を行っていたのが、児童センターは1施設で50%、放課後児童クラブは6施設で46.2%でした。

一方で、中央図書館との連携を特段行っていないのは、児童センターは1施設で50%、放課後児童クラブは7施設で53.8%でした。

⑥(児童センター対象)施設利用児童の読書環境がさらに良くなるために、糸満市に要望することはありますか？(複数回答可)

(施設数)

絵本の購入予算を増額してほしい	1
子どもへの読み聞かせがいかに良いかを保護者に伝える取組を行ってほしい	2
その他要望	1

《要望詳細》

- ・本館が実施・活動をした「読み聞かせキャラバン隊」の様な読み聞かせチームを結成し、児童たちへの読み聞かせをしてほしい。年に1~2回で十分な効果が期待できると考えられる。チームはボランティアの方々をお願いしたい。

⑥(放課後児童クラブ対象)施設利用児童の読書環境がさらに良くなるために、糸満市に要望することはありましたら教えてください。

くろしお号について(2件)

- ・くろしお号の存在は知っていますが、定期的に学童駐車場に来てくださると児童たちの本への関心も高まるかと思えます(児童たちからの提案です)。
- ・月1回程度でいいので、児童クラブ近くの公園等へくろしお号が来ると、子どもたちも本を読む機会をつくることできると思う。

情報提供について(2件)

- ・年齢にあった絵本計画書の作成。保育園から小学校まで(年齢・月 毎月10冊程度)。小学校の読み聞かせボランティアの方々も助かるのではないのでしょうか。
- ・シリーズ絵本などの最新作をお知らせしてほしい。

ボランティアについて(1件)

- ・シルバー人材センターからの読み聞かせボランティアを行ってほしい。地域との交流も踏まえて、他の方(職員以外)が読んでいただけると、子どもたちも新鮮な気持ちで本に興味を持ってもらえると感じたからです。

講演会等の開催(1件)

- ・読み聞かせの講座を開催してほしい。

補助について(1件)

- ・毎年新しい本を寄付してほしい。

その他(1件)

・各カテゴリーで、市内限定の読書感想文・画大会を実施し、入賞者の作品紹介を広報誌で行うと、市全体が読書に対して興味を持つかなと思う。(金賞者には、商品ではなく、市長室で単独インタビューの特典付き。インタビュー内容を広報誌に掲載。予算0でできる。)小・中・高校を通して実施すると、先生たちの負担もあるので、居場所を実施している団体や、家庭でできるように呼びかける。

【課題】

- ①本の状態に関して、「古い本や修繕をした本が多い」と答えた割合が多いことから、本の状態を改善するためにも、本の購入予算を増やしたり、補助する取組が必要です。
- ②中央図書館との連携強化が必要です。

(4)中央図書館

中央図書館については、国の「第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画¹¹⁾」で図書館に関して記載のある項目について、糸満市における現状と課題を示します。

①図書館における読書を支援する取組

ア 図書館等の整備

平成9年に中央図書館が開館し移動図書館ともに図書館サービスを提供、市民の方々に利用されていますが、空調等の施設の老朽化や閉架書庫書架の収容率が増加し、資料の長期的な保存が困難となっています。また、ICタグ等の設備が整っていないため、業務の効率化が図れていません。

イ 移動図書館の活用

市内の巡回ステーションを25か所設置し、図書館に直接来館が困難な利用者に対するサービスを行っています。市内の学校へは9か所巡回（高嶺小・米須小・大度分校・喜屋武小・兼城小・真壁小・潮平小・西崎特別支援学校・西崎中）、児童センターへは1か所（がじゅまる）に巡回しています。学校への巡回希望は多いですが、未対応の状況です。

ウ 情報化の推進

インターネット用の端末2台、オンライン閲覧目録（OPAC）を導入済みです。Wi-Fiへの要望はありますが未導入の状況です。

エ 子どもの利用のためのスペース等の配置

児童コーナーが正面玄関横手に配置しています。読み聞かせやおはなし会に利用する「おはなしのへや」、子どもの背丈にあった書架やテーブル・椅子、ベビーカー型カート、ベビーベット（オムツ交換用）を置いています。専用の授乳室がないため、対面朗読室を授乳室の代わり使用しています。また、中高生向けのスペースとして「YA（ヤングアダルト）コーナー」を配置し、学習や軽読書・文学作品を中心とした資料を収集しています。将来の進路に役立つ専用コーナー「YAハローワーク（職業に関する本）」を設け、インターシップなどで情報を提供しています。

¹¹⁾ 詳細は以下のURLからご覧ください。(https://kodomodokusyo.go.jp/happyyou/hourei.html)

オ 障害のある子どものための諸条件の整備・充実

児童向け点字資料（触れる本）やLLブック¹²、朗読CD、バリアフリー対応の映像資料を積極的に収集していますが、これらの資料は出版点数がまだ少ないため、収集に苦勞しています。また、指差しボードなどの設置をしています。今年度、サピエ¹³の導入を予定しておりハンディキャップを持つ児童生徒への資料充実に図ります。

カ 運営状況に関する評価等の実施

教育施策事務点検等による評価や図書館協議会委員による図書館運営に対する助言を受け、サービスの向上に努めています。

キ 図書館資料の整備・提供

調べ学習に役立つ資料、子どもたちが興味関心を持つ資料の積極的な収集を行っていますが、市内小中学校16校すべての学習に対応できる資料の確保が困難です。また子ども向けの地域資料は出版点数が少なく、収集に苦慮している現状があります。今後も市民の生涯学習センターとして機能するために、一定の資料費の確保が必要です。また、電子書籍や各種データベースなどの需要がありますが、未導入の状況です。

ク 子どもや保護者を対象とした取組の企画・実施

毎月定例のおはなし会や赤ちゃんおはなし会を実施し、乳幼児からの読書に親しむ環境づくりを行っています。また、本に関する興味関心を持つよう、常に季節や行事に合わせた特集・展示や壁面装飾などを行っています。

ケ 読書活動に関する情報提供

児童コーナーに読み聞かせに関する資料を配架し、大型絵本や読み聞かせ専門誌の購入等、家庭や学校での読み聞かせ活動のサポートを行っています。また、赤ちゃんおはなし会を開催する際に子育て支援活動を行うNPOと連携し、乳幼児への読み聞かせ方、絵本の選び方など情報提供を行っています。そして、図書館のTwitterを利用し、おはなし会などの図書館イベント情報を発信しています。

¹² 「LL」とはスウェーデン語の「Lättläst（分かりやすく読みやすい）」の略で、「LLブック」とは、読むことに困難を伴いがちな青年や成人を対象に、生活年齢に合った内容を、分かりやすく読みやすい形で提供すべく書かれた本のことです。

¹³ 視覚障害者および視覚による表現の認識に障害のある方々に対して点字データ、デイジーデータなどを提供するネットワークのことです。日本点字図書館がシステムを管理し、全国視覚障害者情報提供施設協会が運営を行っています。正式名称は「視覚障害者情報総合ネットワーク」です。

②連携・協力

ア 学校図書館等との連携・協力

調べ学習での資料提供、団体貸出、移動図書館車による本の配送を行っています。移動図書館車による図書の配送は、現在巡回中の学校に限定され、すべての市内学校へは対応できていない現状があります。また、学校司書および司書教諭との交流がありません。そして、学校と公共図書館の体系的な連携がなく、相互の蔵書の把握や相互利用はありません。

イ ボランティア活動の促進

おはなし会や特別おはなし会などのイベントで読み聞かせボランティアと連携し事業を実施しています。また、年に1回、読み聞かせボランティア団体と図書館の児童担当職員が交流を持ち、読み聞かせや児童書に関する情報交換を行っています。